



香島嶺の 机の島の しただみを
い拾ひ持ち来て 石もち つつき破り

早川に 洗ひ濯ぎ

幸塩に ごとと揉み

高杯に盛り 机に立てて

母にまつりや 愛づ児の刀自

父にまつりや 愛づ児の刀自

出していた温泉である。

詩歌の景色

は、ほかでは見るのできない、七尾らしい風景を創りだしている。ここには、数少なくなっている天然の干潟などの自然が多く残されており、西湾周辺とともに、美しい景観を形成している。



この、浅い海に河川が注ぎ込むことで創られる、河口干潟一帯は、水鳥の群れにとって憩いの地となっている。これら西湾一帯は、県内一の海鴨の渡来地であり、珍鳥が姿を見せることでも知られている。今年、開湯1200年を迎えた和倉温泉も、もとは西湾の海中に湧き

和倉温泉から西湾を眺めると、静かな海の先には、緑豊かな能登島の姿が見える。緑が多く残る対岸を眺めていると、万葉歌人・大伴家持が「鳥総立て…木立繁しも…」と歌に詠んだ神々しい景色を今に伝えていくようである。

また、西湾のほぼ中央にある机島は、家持が「能登国歌」として『万葉集』に収録した歌に、「机の島」と詠まれている場所だといわれている。

さらに、西湾には、多くの文人墨客をはじめとした人々が訪れ、その情景を詩歌などに残している。

これからも、この豊かな海は、人々を魅了し、穏やかで、美しい姿を見せ続けてくれることだろう。

今月の 主要内容 CONTENTS

- 和倉温泉開湯1200年 …… 4
- 行政改革プラン(案) …… 6



七尾湾

美しい景観と豊かな海の幸に恵まれた七尾湾。この内海は、海産物の宝庫であり、釣り人からは「天然の生簀」と呼ばれることもある。また、能登島を囲むように広がる湾は、海草や海藻の希少種が多いことで、環境省による「日本の重要湿地500」にも選ばれている。